

平成 30 年不動産鑑定士試験論文式試験

会 計 学 ( 問 題 ) { 満点 100 点  
時間 2 時間 (10時~12時) }

〔注意事項〕

- 1 問題用紙及び解答用紙は、係官の指示があるまで開けてはいけません。
- 2 これは、問題用紙です。解答は、解答用紙に書いてください。
- 3 問題用紙は表紙を含めて 3 ページ、解答用紙は表紙を含めて 3 ページです。
- 4 解答は、解答用紙の所定の欄に、黒若しくは青のボールペン又は万年筆で丁寧に書いてください。鉛筆等で書くと無効となります。
- 5 答案の下書きは、問題用紙の余白部分を利用してください。
- 6 問題用紙は、本科目終了後、持ち帰っても構いません。

\* この問題は、平成 29 年 9 月 1 日時点で施行されている法令及び諸規程により出題しています。

**問題 1** (50点)

**問 1** 対応原則に関する次の各問に答えなさい。

(1) 次の文章を読み、①及び②の各設問に答えなさい。

企業会計原則によれば、「損益計算書は、企業の（ア）を明らかにするため、一会計期間に属するすべての（イ）とこれに対応するすべての（ウ）とを記載して経常利益を表示し、これに特別損益に属する項目を加減して当期純利益を表示しなければならない。」とされている。ここで述べられている対応原則は、一会計期間における（ウ）と（イ）とが企業経営の（エ）と成果の関係を満たしていることを要請したものであり、（オ）を達成するために不可欠な原則である。

かかる対応には、売上高と（カ）との間の関係のように商品や製品を媒介とした結びつきを表す（キ）と、売上高と（ク）との間の関係のように期間を媒介とした結びつきを表す期間的対応との2つがある。

① 文中の（ア）から（ク）までに入る適切な語句を答えなさい。

② 下線部の「期間を媒介とした結びつき」とはどのようなものか説明しなさい。

(2) 繰延資産として計上される特定の費用に該当するための要件を3つ答えなさい。

(3) 引当金の設定要件を4つ答えなさい。

**問 2** 費用の認識をめぐって、対応原則と発生主義との関係について説明しなさい。

**問 3** 対応原則に対する批判として、「対応原則を重視すると、抽象的な資産や負債が貸借対照表に計上されてしまう」というものがある。抽象的な資産や負債とは具体的に何か、また、なぜ抽象的な資産や負債が計上されるのかを明確にしつつ、かかる批判を説明しなさい。

## 問題2 (50点)

有形固定資産に関する会計処理について、次の各問に答えなさい。

(1) 次の文章は、企業会計原則の一部である。次の空欄 (ア) から (エ) までに入る適切な語句を答えなさい。

有形固定資産については、その取得原価から (ア) を控除した価額をもって (イ) 価額とする。有形固定資産の取得原価には、原則として当該資産の取引費用等の (ウ) を含める。現物出資として受入れた固定資産については、出資者に対して交付された株式の (エ) 価額をもって取得原価とする。

(2) 有形固定資産を交換によって受け入れた場合、その評価基準として①譲渡資産の簿価を評価額とするもの、②譲渡資産の時価を評価額とするもの及び③受入資産の時価を評価額とするもの、という3種類が考えられる。受入資産が譲渡資産と同一種類かつ同一用途である時、上記の3つのうちどの方法を採用すべきであるか、その理由を明確にしつつ答えなさい。

(3) 有形固定資産の取得後に、修繕や改良のために支出をする場合があるが、これらは資本的支出と収益的支出とに分かれる。「資本的支出」及び「収益的支出」の定義をそれぞれ述べなさい。

(4) 当期首に建物の大規模な改修工事を行ったが、この改修工事の代金は12,000,000円であった。この改修の結果、当期首時点の残存耐用年数が4年から12年に延びた。耐用年数が延長した分に対応する部分を資本的支出とし、残りの分が収益的支出(修繕費)とする場合、資本的支出として計上すべき金額はいくらになるか、①計算式及び②金額を答えなさい。

(以下余白)

